

環境経営レポート 2023

対象期間 2023年3月1日～2024年2月29日

株式会社 トーワ
2024年5月15日発行



目次

P1.目次
P2.会社概要
P3.環境方針 / SDGsとTOWA / 長野県SDGs推進企業登録制度
P4.実施体制
P5.環境経営目標と目標達成手段
P6.環境活動計画の取組み結果と評価①
P7.環境活動計画の取組み結果と評価②
P8.環境活動計画の取組み結果と評価③
P9.環境活動計画の取組み結果と評価④
P10.環境活動計画の取組み結果と評価⑤
P11.環境負荷及び環境経営目標に対する実績と評価①
P12.環境負荷及び環境経営目標に対する実績と評価②
P13.次年度の環境経営目標と目標達成手段
P14.環境関連法規の取りまとめ及び遵守状況の結果
P15.代表者による全体評価と見直しの結果

会社概要

事業所名	株式会社トーワ
代表者	代表取締役 荒井典子
所在地	長野県駒ヶ根市赤穂7820-8
創業	1988年3月
連絡先	TEL:0265(83)1445 FAX:0265(83)6130 MAIL : info@towa-corp.co.jp
環境管理責任者 担当者	代表取締役 荒井典子 環境統括管理責任者 向山洋平
従業員数	18名
床面積	1,398㎡
事業内容	電気機械器具関連部品および製品の組立 各種機器部品の受注・販売 電気機械器具関連機器の開発

対象範囲	本社工場
環境活動期間	2023年3月1日～2024年2月29日
認証登録番号	0000663



当社は、FA関連製品や省力化装置等の受託製造を行う会社です。
セル生産方式を基本とした多品種小中量ロットの生産体制による柔軟な対応と、部材調達から金属加工、組立検査、梱包までの一貫対応を得意としています。

「お客様の立場で考え、誠実に対応する」をモットーに、よりよいものづくりを追求し、社会に貢献すべく事業活動に取り組んでいます。

環境方針

基本理念

株式会社トーワは「自然との共存」、「環境との調和」を理念に、環境に対する企業の社会的責任を深く認識し、地球環境の保全と社会への貢献を目指し活動します

1. 環境負荷の低減

事業活動において、資源・エネルギーの利用効率を高めるとともに水使用量及び廃棄・排出物の抑制とリサイクルに努め、環境負荷の低減を目指します

2. 環境関連法規及び顧客要求事項の遵守

環境関連法規及び顧客要求事項を遵守し、自主的・継続的に環境管理水準の向上に取り組めます

3. 環境意識の向上

情報伝達・教育訓練・研修等への参加も含め、積極的に啓蒙活動を行い、社員の環境意識の向上に努めます

4. 継続的改善

環境経営の継続的改善を誓約します

2019年4月1日
株式会社トーワ
代表取締役 荒井典子

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



▶ SDGsとTOWA

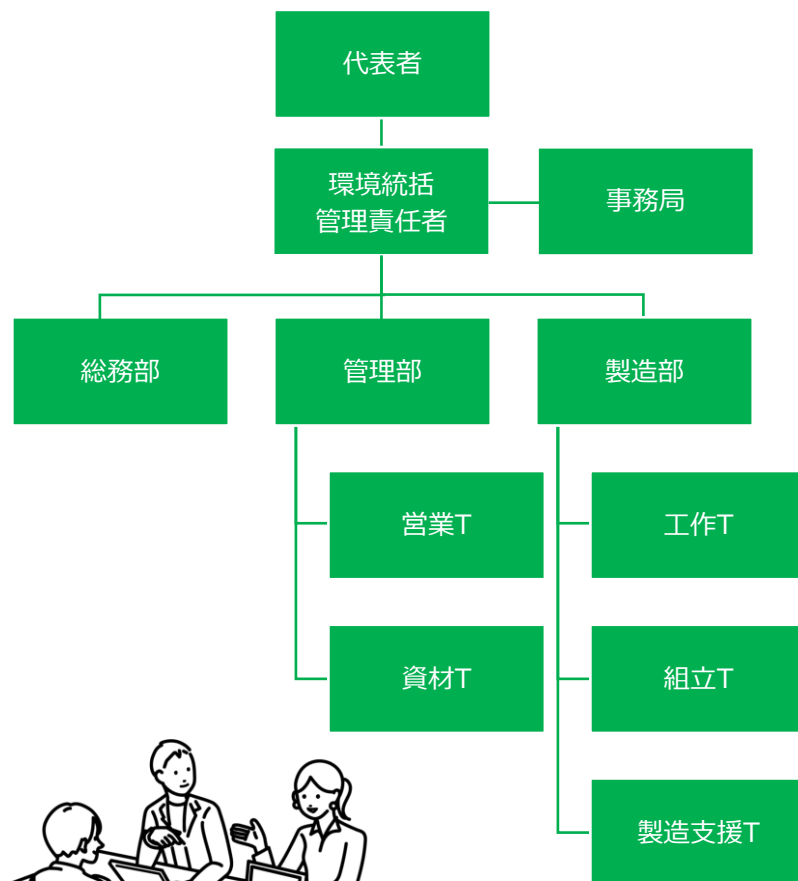
当社が掲げる環境方針は、SDGs(持続可能な開発目標)の達成と目的を同じくするものです。事業活動を通して全社員がそれぞれの役割を果たし、継続的な改善に取り組むことでSDGsの達成に貢献します。

▶ 長野県SDGs推進企業登録制度に登録しています

長野県SDGs推進企業登録制度とは、SDGsと企業活動との関連性について「気づき」を得るとともに、具体的なアクションを推進する長野県独自の登録制度です(2019年4月創設)
当社でも環境活動をより活性化し、SDGsとの関連性を理解して持続可能な開発目標の達成に貢献できるよう2023年7月に当制度に登録を致しました。



実施体制



活動体制責務表

代表者 (代表取締役)	・課題とチャンス の明確化 ・環境方針の策定・周知 ・環境経営システム及び実施体制の構築 ・適切な経営資源の提供 ・環境統括管理責任者の任命 ・環境経営目標・環境活動計画の承認 ・環境経営全体の評価と見直し及び指示 ・環境レポートの承認
環境統括 管理責任者	・環境経営目標の策定・周知 ・環境経営計画の承認・周知 ・環境関連法規の取りまとめ・遵守状況確認 ・緊急事態訓練の計画・実施・評価 ・外部コミュニケーション ・問題点の是正処置 ・環境経営レポートの確認
事務局 (各部長)	・環境統括管理責任者の補佐 ・文書類の作成・管理 ・所属部署の取組状況の確認・管理 ・教育・訓練の実施 ・環境経営レポートの作成
責任者 (各TL)	・実施状況の進捗把握と評価 ・部署内メンバーへの指示・確認 ・教育・訓練の実施（メンバー育成）
メンバー	・計画に沿って活動を実行し状況確認を行う



環境経営目標と目標達成手段

2023年度 環境経営目標	具体的手段（主管）	
二酸化炭素排出量削減 【電力排出係数：中部電力2021年度0.449kg-CO2/kwh】 原単位目標：377kg-CO2/百万円 （二酸化炭素総排出量：94,250kg-CO2）	・空調設備の更新（製造部） ・新規設備の導入と立上げ（工作チーム） ・生産性の改善（全社）	  
水使用量の削減 総排水量：156m ³	・節水活動の維持継続（全社）	
廃棄物排出量の削減 原単位目標：7kg/百万円 （一般廃棄物総排出量：1,750kg）	・顧客クレーム削減（全社） ・仕損じ廃棄削減（製造部・管理部） ・経費抑制（全社）	
自らが生産・販売・提供する製品の環境性能向上及びサービスの改善	・新規開拓（営業チーム） ・在庫低減（資材チーム） ・人材育成（製造部）	

中長期 環境経営目標（2023年度～2025年度）

二酸化炭素排出量抑制…生産性の改善
 廃棄物排出量の削減…クレーム・不適合の削減
 水資源投入量及び総排水量の維持管理…日々の節水活動
 化学物質の適正管理（顧客指定により削減できないため）
 自らが生産・販売する製品の環境性能の向上及びサービスの改善…顧客満足・販売目標の達成

		2022年度実績	2023年度	2024年度	2025年度
二酸化炭素排出量原単位目標	kg-CO2/百万円	377	377	377	377
（二酸化炭素総排出量目標）	kg-CO2	144,802	94,250	94,250	94,250
総排水量	m ³	156	156	156	156
一般廃棄物排出量原単位目標	kg/百万円	7	7	7	7
（一般廃棄物総排出量目標）	kg	2,664	1,750	1,750	1,750

環境活動計画の取組み結果と評価①

▶ 設備の更新・導入による二酸化炭素排出量削減（評価：○）

工場内のエアコンが旧態化していたため、2022年12月に省エネタイプの最新機種へ更新した(工場：6台+食堂：1台)ので、今期は更新前・更新後の年間の二酸化炭素排出量の比較検証を行いました。

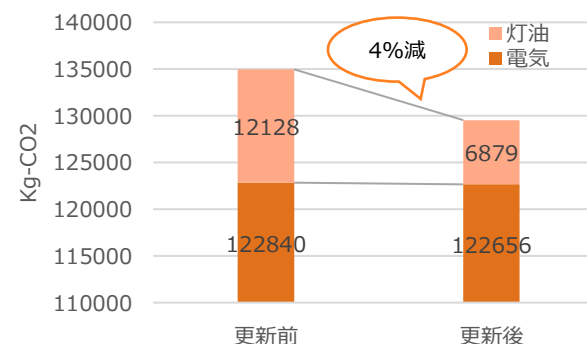
更新による使用状況の変化については、更新前のエアコンは冷房専用機だったため、夏場は冷房専用エアコン(電気)・冬場はFF暖房機(灯油)で空調を行っていましたが、今回更新したエリアについては FF暖房機(灯油)の使用を廃止しました。

二酸化炭素排出量削減状況の検証は、電気と灯油の使用による二酸化炭素排出量の比較で行いました。更新前1年間(2021年12月～2022年11月)の排出量が134,968kg-CO₂、更新後1年間(2022年12月～2023年11月)の排出量が129,536kg-CO₂となり、4%の削減効果があることが確認できました。

新しいエアコンは、省エネ性能に優れているだけでなく、タイマーも細かく設定できるため職場内の温度管理がしやすくなり、品質管理の面でもよりよい職場環境となりました。



灯油と電気の使用による二酸化炭素排出量削減状況



工作チームにて、新たな工作機械の導入と検査室の新設を行いました。

導入した機械は、既存機種より省エネ性能や加工性能に優れています。
新たな工作機械の導入により、今後の生産能力の増強・品質の安定・サービスの向上等、よりよいものづくりができる環境を整えることが出来ました。

検査室については、照明をLED化し、省エネタイプのエアコンを新設しました。
以前は工場内の一角をビニールカーテンで区切って検査スペースとして利用していましたが、温度管理が難しいことやミストの影響など環境面で改善の余地がありました。
今回、新たに検査室を設けたことで温度管理がしやすくなり、クリーンな環境での検査体制が整備されたとともに、製品の移動動線が改善され生産性も向上することができました。

環境活動計画の取組み結果と評価②

▶ 生産性の改善による二酸化炭素排出量削減（評価：○）



工作チームではCNC旋盤・マシニングセンターなど複数の機械の特長を活かして、アルミ・SUS・真ちゅう・チタン・銅など様々な金属の切削加工で顧客ニーズに柔軟に対応しています。加工単品の他、組立で使用される金属部品も工作チームが製作しており、両部署の連携で高精度製品の組上がり品質の向上と安定化を確立する体制です。

現場では、多品種少量生産に対応するため、ツールや工具・測定器・加工治具などが多い傾向にあります。日常的に5Sが定着されていますが、今期は工作機械の導入を機に、工場全体の動線を見直し、工作機械のレイアウト変更と工具棚・段取り台車などの改良を実施しました。工具棚は、以前は重量棚を使用していましたが、スペース占有率に対する収納量や使い勝手に課題があったため、サイズや配置などチームメンバーの意見やアイデアを集約して改良を行い、収納量をUPすることができました。

限られた工場スペースの中、レイアウトや工具棚・台車などの工夫により、スペースも生み出され、スムーズな動線となり作業性がよくなりました。



自社で設計製作したクリーンベンチです

組立チームでは多品種小中量生産に適したセル生産方式を基本にした生産体制となっており、一人が組立から検査梱包までの幅広い工程を担当し、顧客ニーズに柔軟に対応しています。

今期は、より工程の長い製品にも対応するため、複数セルを組み合わせた新たなラインの立上げを行いました。各セルの作業台やクリーンベンチなど必要なものは可能な限り自社で設計製作し、動線をコンパクトにまとめることで品質の安定と生産性の向上に取組みました。

複数セルの組み合わせラインは計画通り完成しましたが、活動はこれで完結ではありません。実際に運用すると様々な改良の余地が出てくるため、よりよいラインにしていけるためにPDAサイクルを回し、チームメンバーの意見やアイデアを取り入れながら作り込みを行っていくこととしています。

環境活動計画の取組み結果と評価③

▶ 生産性の改善による二酸化炭素排出量削減（間接部門）（評価：○）



営業チーム・資材チームでは、お客さまや協力会社さまへの訪問や納品時のルートを考慮することで二酸化炭素排出量削減への取組みを日常的に継続しています。

当社のお客さまは県外企業が主となっています。

Web会議対応の環境は整えていますが、基本は対面でのコミュニケーションを大切にして営業活動を行っています。

お客さまのご都合を最優先とした上で、極力同じ方面で複数社ご訪問させて頂き、円滑なコミュニケーションを行えるよう、週次で行動計画を立てて活動しています。

資材チームについては、協力会社さまへの持ち込み・引き取り等、納期最優先とした上で、同じ方面をまとめ、効率的に動けるよう取組みを継続しています。



総務部では、総務業務に加えて生産管理システムの管理を担当しています。

当社の生産管理システムは、多品種小中量生産に対応するオリジナルのシステムですが、受注する仕事の内容の変化や社内の管理精度向上に対応するため、改修が必要な状況となっていました。

そこで、今期は間接業務の生産性改善として生産管理システムの改修を重点的に行いました。

関係部署の意見や要望の聞き取りを行い、年間10回以上のバージョンアップを実行。機能追加と操作性を向上することができました。

また、システムのバージョンアップを行ったことで、印刷・紙保管する帳票も減らすことができ、廃棄物削減にもつながる内容となりました。



▶ 節水活動の維持継続による水使用量削減（評価：○）



当社の節水意識は定着しており、取組み結果に問題はありませんでした



環境活動計画の取組み結果と評価④

▶ 不良品の削減による廃棄物排出量の削減（評価：△）



不良品の削減活動は、顧客クレームの件数と仕損じ廃棄の金額で部署ごとに目標管理を行い取組みを行っています。今期は顧客クレームの件数目標を年間9件以下、仕損じ廃棄は対売上比で0.4%以下に目標設定しました。

当社は1個から月産数千個の小中量ロットを得意とする生産体制です。

「初めて」「久しぶり」「変更」など3H管理に該当するケースも多くあり、「初めて」や「変更」の際には関係部署が集まり検討会議・評価会議を開催し、勘違いや行き違いがないよう確認を行う仕組みとなっています。「久しぶり」にも適確に対応できるよう、工作チームでは加工手順や注意ポイントなどを作業標準書に盛り込む活動と検査プログラムの登録に取組み、組立チームでは作業標準書の造り込みに加えて、作業動画を作成する活動を行っています。地道な活動ですが、作業標準書の造り込みが進むことで記憶に頼る作業やボカミスが減り、不良の再発を防ぐことが出来ています。

資材チームでは、材料不良による廃棄を削減すべく、受入検査の強化に取組みました。検査区分の見直しと共に、総務部にて生産管理システムの検査結果登録・履歴参照機能を改良し、検査時に蓄積したデータを活用できる仕組みを構築しました。下期から本格運用を開始した結果、不具合品の次工程流出を上期の半分以下となる2件に抑えることが出来ました。

今期は、顧客クレームは目標に対して+5件・仕損じ廃棄は目標比率に対して+0.2%で未達となったため取組みの評価を△としました。顧客クレームや仕損じ廃棄の発生は、廃棄物排出量や二酸化炭素排出量の増加要因となるとともに顧客満足度の低下に繋がりかねないため、不適合品発生時はISO9001の規定に沿って速やかに原因究明・再発防止対策を行い、品質向上に取り組んでいきます。

▶ 経費抑制による廃棄物排出量の削減（評価：○）



工作チームでは、刃物の見直しや再研磨を増やし、刃物の長寿命化に取組みました。工具棚の改善や購入申請の仕組みの運用で欠品や過剰購入を起こすことなく、適正管理が出来ています。

組立チームでは、補助材料の購入荷姿の変更で容器の廃棄量を減らす取組みを行いました。購入申請の仕組みの一部が工作チームと異なる部分があるため、来期は仕組みの統一化を行い経費管理の精度を上げていきます。

営業チーム・資材チームでは、梱包箱や緩衝材の通い化に取組むことで廃棄物抑制・経費の抑制に取組みました。受注する仕事の内容の変化により、ここ3年ほどダンボールの排出量が増加傾向にありますが、再資源化できるよう分別を徹底しています。



環境活動計画の取組み結果と評価⑤

▶ 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能向上及びサービスの改善の取組み（評価：○）



営業チームでは機械要素技術展（6月）・諏訪圏工業メッセ（10月）・新ものづくり・新サービス展（12月）の3つの展示会に出展しました。今までは年2回の出展でしたが、今期は初めて12月に新ものづくり・新サービス展に出展し年3回の出展となりました。今期はポスターや会社案内を刷新し、展示品も一部入替えを行って展示会に臨みました。展示会をきっかけにした引き合いも頂くことが出来、今までよりもよい反応を頂けたと思います。今後も展示会で得た情報を営業活動に活かし、新規開拓の取組みを継続していきます。

資材チームでは、在庫の低減に取組みました。当社の調達の基本は工番手配のため、基本的には在庫は抑えられる仕組みとなっていますがここ2～3年は、コロナの影響で納期が長期化した部材が増加したため、お客さまの納期への影響を最小限に抑えるべく、先行手配や数量をまとめて購入するなどの対応を行ってきたことで在庫が増加傾向にありました。今期は、入手状況が正常化した部材について従来の管理方法に戻すべく在庫消化の仕組みを組込み、現在も運用を継続しています。今後も状況の変化に応じて柔軟に対応して行けるよう取組みを継続します。

製造部では、新規品の受入体制を強化するため継続的に人材育成に取組んでいます。個々の成長が会社としての対応力向上となり、サービス改善につながるため、3つのポイントを意識して学びの機会を設けました。
①自分なりのテーマを持って展示会の見学に行き見聞を広げる②研修会に参加して技術や知識を身に付ける③OJTで対応できる仕事の幅を広げるこれらの取組みにより、年間で延べ18名が講習会や展示会見学に参加することが出来ました。新たな仕事への取組みは、当社が持つノウハウや技術に更なる磨きをかける大切な機会と捉えています。今後も多様化・高度化するニーズに対応するため、学びの機会を創出し、人材育成を柱としてよりよいものづくりを追求し受入れ体制の強化・サービスの改善に取組んでいます。

▶ SDGs達成に向けた取組み

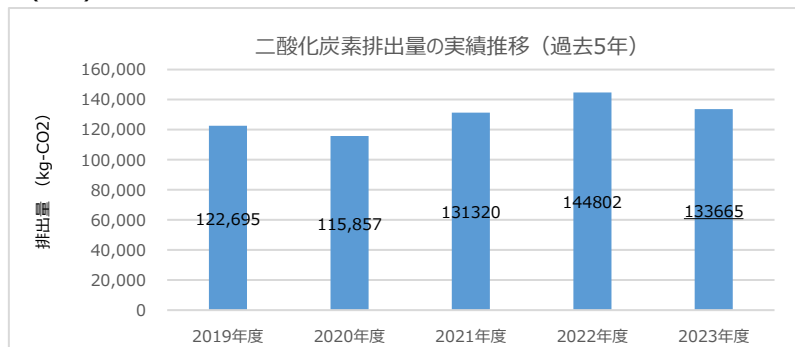


当社は、長野県SDGs登録推進制度の取組みでエコアクション21の取組みに加えて幅広い雇用を目指すことを目標としています。組立チームでは重筋作業が増加傾向にあったことから、性別・年齢に関わらず安全に作業ができるよう助力装置を導入し、安心して重筋作業に従事できる環境を整えました

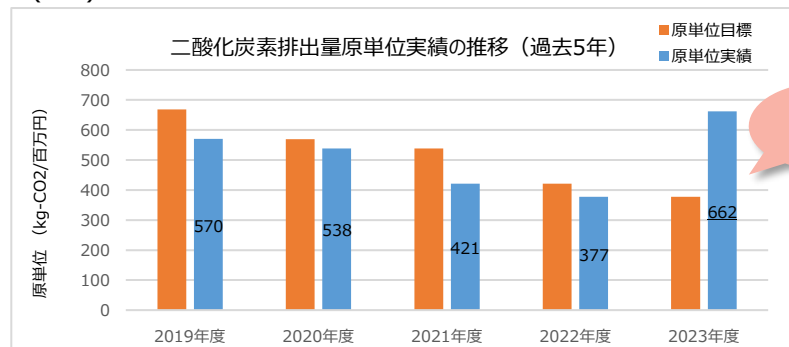


環境負荷及び環境経営目標に対する実績と評価①

(図1)



(図2)



◆◆二酸化炭素排出量削減◆◆

図1は過去5年の二酸化炭素排出量の推移、図2は過去5年の原単位の目標と実績の推移です。

当社の二酸化炭素排出量は、受注する仕事の内容や量に影響を受けるため、二酸化炭素排出量が削減できたかどうかの評価は二酸化炭素排出量を売上(百万円)で割った原単位を使用しています。

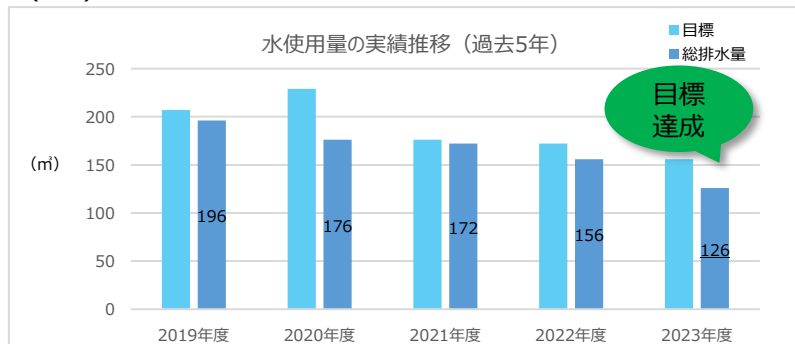
2023年は計画通り取組みが実施されましたが、目標未達となりました。原単位目標未達の原因は、生産量の減少・受注機種の変化によるもので、生産量の減少・余力の発生に対して、休業や工場停止でなく改善活動や人材育成に取り組んできたためです。

次年度については、引き続き受注回復の見通しが立てづらい状況が続くと予想していますが、2023年度の実績を参考に、次年度の原単位目標を590kg-CO2/百万円、二酸化炭素総排出量目標を135,700kg-CO2に設定しました。

目標達成手段（環境経営計画）は機械稼働率UP・生産性の向上です。



(図3)



◆◆水使用量削減◆◆

図3は過去5年の水使用量の推移です。

当社の水使用量は、殆どが生活用水となっているため、原単位目標は設定していません。

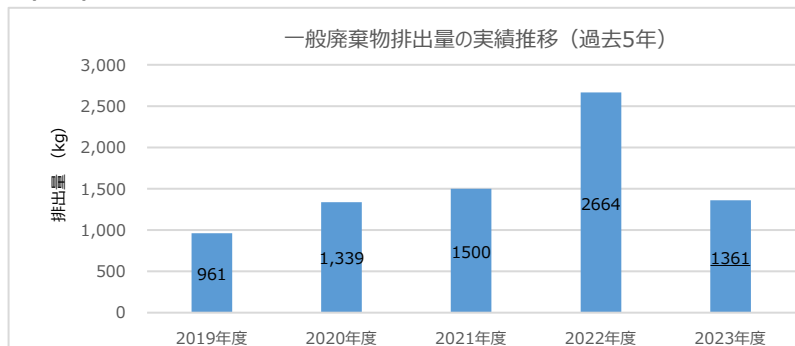
2023年度も計画通り取組みが実施され、目標達成となりました。

次年度の水使用量の目標値は156m³とし、日常の節水活動の維持継で水使用量の抑制に取り組んでいきます。

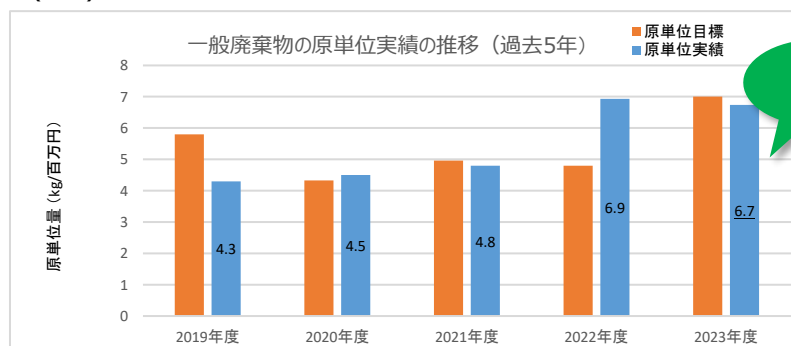


環境負荷及び環境経営目標に対する実績と評価②

(図4)



(図5)



◆◆一般廃棄物排出量削減◆◆

図4は過去5年の一般廃棄物排出量の推移、図5は過去5年の原単位の目標と実績の推移です。

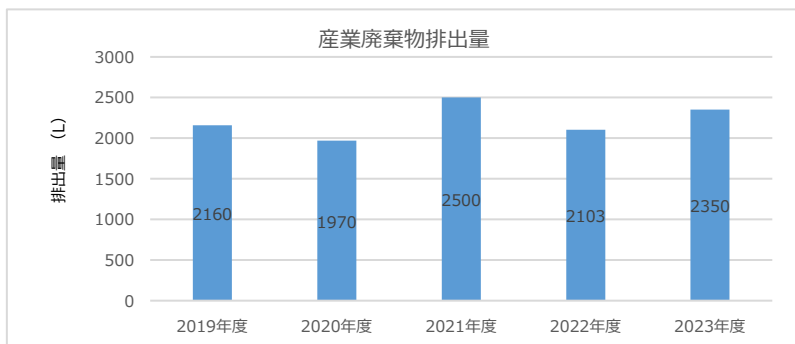
当社の一般廃棄物排出量は、二酸化炭素排出量と同様受注する仕事の内容や量に影響を受けるため、一般廃棄物排出量を売上(百万円)で割った原単位を使用して評価します。

2023年の取組みについては設定した数値目標に届かず△の評価となりましたが、原単位目標の達成となりました。一般廃棄物総排出量としても前年度比で50%の減少となっています。次年度の原単位目標を7kg/百万円、一般廃棄物排出量目標を1,610kgに設定します。

目標達成手段（環境経営計画）は顧客クレーム削減・仕損じ廃棄の抑制とし、廃棄物排出量抑制を目指します。



(図6)



◆◆産業廃棄物排出量◆◆

図5は過去5年の産業廃棄物排出量の推移です。

当社の産業廃棄物は、洗浄液と切削油の廃油です。

2023年度は内製化を進めたため、廃油排出量が増加していますが、2020年に洗浄機を蒸留再生機能付きのものに更新し、洗浄液の排出量を抑えています。切削油の廃油については工作機械の稼働状況によって変動しますが、自社製作のオイルスキマーの使用や定期的なスラッジ除去の実施の仕組みが定着しており、液や工具の長寿命化や製品の品質安定に繋がっています。次年度以降も仕組みの運用を継続していきます。



次年度の環境経営目標と目標達成手段

2024年度 環境経営目標	具体的手段（主管）	
二酸化炭素排出量削減 【電力排出係数：中部電力2021年度0.449kg-CO2/kwh】 原単位目標：590kg-CO2/百万円 （二酸化炭素総排出量：135,700kg-CO2）	・機械の稼働率UP（工作チーム） ・生産性の改善（全社）	  
水使用量の削減 総排水量：156m ³	・節水活動の維持継続（全社）	
廃棄物排出量の削減 原単位目標：7kg/百万円 （一般廃棄物総排出量：1,610kg）	・顧客クレーム削減（全社） ・仕損じ廃棄削減（製造部・管理部） ・経費抑制（全社）	
自らが生産・販売・提供する製品の環境性能向上及びサービスの改善	・新規開拓（営業チーム） ・在庫低減（資材チーム） ・人材育成（製造部）	

中長期 環境経営目標（2024年度～2026年度）

二酸化炭素排出量抑制…生産性の改善
 廃棄物排出量の削減…クレーム・仕損じ廃棄の削減
 水資源投入量及び総排水量の維持管理…日々の節水活動
 化学物質の適正管理（顧客指定により削減できないため）
 自らが生産・販売する製品の環境性能の向上及びサービスの改善…顧客満足・販売目標の達成

		2023年度実績	2024年度	2025年度	2026年度
二酸化炭素排出量原単位目標	Kg-CO2/百万円	662	590	590	590
（二酸化炭素総排出量目標）	Kg-CO2	133,665	135,700	135,700	135,700
総排水量	m ³	126	156	156	156
一般廃棄物排出量原単位目標	Kg/百万円	6.7	7	7	7
（一般廃棄物総排出量目標）	kg	1,361	1,610	1,610	1,610

環境関連法規の取りまとめ及び遵守状況の結果

法令の名称	遵守事項	判定
浄化槽法	保守点検及び点検記録の保管（3年間）	○
	清掃の実施及び清掃証明書の保管（3年間）	○
	法定検査の実施及び検査結果書の保管（3年間）	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	委託契約書の保管	○
	許可証の確認・保管（一般廃棄物及び産業廃棄物収集運搬・処理）	○
	保管基準（掲示板表示、飛散・浸透防止等衛生管理）	○
	マニフェストの発行・保管	○
	マニフェスト交付状況の報告書作成・都道府県知事への提出	○
フロン排出抑制法	適切な置き場の維持、機器の点検と既得の保管、漏洩防止	○
	フロン漏洩量の算定・報告	○
	充填・回収の委託、廃棄する場合の委託	○
	引き取り証明のない場合の報告	○
消防法	少量危険物貯蔵の届出	○
	消防設備の定期点検、点検結果報告書の保管	○
労働安全衛生法	使用化学物質のSDS備付けと当該品を取り扱う従業員への周知	○
	リスクアセスメントの実施	○

環境関連法規への違反は自らの3年間の遵守チェックで違反はありません
 なお、関係当局からの違反等の指摘や外部からの訴訟等は過去3年間ありませんでした

代表者による全体評価と見直しの結果

世界的なSDGs達成に向けた取組みの高まりを受け、当社でもエコアクション21の活動をより活性化しSDGsの達成に貢献するため、長野県SDGs推進企業登録制度に申請を行い、第17期（2023年7月）にて登録となりました。

登録に際し、SDGsと自社の環境活動との繋がりをイメージできるよう、基礎的な内容の動画を社員全員で視聴し、バッヂを配付しました。

SDGs達成に向けた具体的取組として、エコアクション21を基本にした環境負荷低減の活動に加え、幅広い雇用への取組みを設定しました。

今期は、雇用環境整備の具体的取組として、重量物取り扱い時における労働災害を防止するための助力装置、電動バランサー「ムーンリフター」の新規導入を行いました。助力装置の導入により、性別や年齢に関わらず、身体的な負担の軽減や安全に作業ができる環境を整えることができ、幅広い雇用の実現に一步近づくことができたと思います。

エコアクション21の環境活動計画に対する実施状況・運用状況については、部署ごと毎月の報告書にて進捗や状況を確認しフィードバックを行う方法を継続しており、今ある仕組の改善または仕組み化による活動の定着を目指して活動を進めています。

今期の環境活動は、計画通りに実施されたものの、半導体業界向け装置の需要低迷や顧客の生産調整のあおりを受け、工場に余力が発生する事態となり、苦戦を強いられた1年となりました。

工場の余力については、休業措置を取らずに、サービスの改善を目指して内製化や人材育成・改善・試作等、技術力・対応力の向上に取組んできたため、二酸化炭素排出量の原単位目標は未達という結果となりましたが、技術力・対応力等仕事の幅を広げ、当社の強みに磨きをかけることが出来たと思います。

次年度も引き続き業況が見通せない厳しい状況が続くと予想していますが、営業チームには新規案件の獲得を、資材チーム・工作チームには内製化の検討を行うよう指示し、37期目標に盛り込みました。

また、組立チームでは扱う材料点数が増えてモノ探しの時間が増加するという新たな課題が生じており、今までの仕組みでは対応しきれない部分が出てきているため、間接部門・製造部門で連携して仕組み作りに取組み、生産性を改善することで二酸化炭素排出量削減を目指すよう指示しました。新たに設置した製造支援チームについては、品質の安定及び工数低減・安定生産を実現すべく、予実の把握・治具化を含めた改善提案を行うよう指示しました。以上の内容は、2024年度の全社目標・部門目標に盛り込むこととしました。環境経営方針・実施体制については変更ありません。

環境経営レポートについて：今までA4タテ版で作成していましたが、紙媒体に加えパソコン等デジタル機器での閲覧も増える傾向にあると考え、今回よりA4ヨコ版で作成することにしました。

今後も環境経営レポートを通して当社の環境活動を発信していきたいと思います。

